

新しい事業の成功を志す人のための ベンチャー経営心得帳

はじめに

私は、若い頃に松下電器産業（株）で、ガリウム砒素（GaAs）半導体デバイスを、年商 100 億円以上の新しい事業に育てたいという夢を持った。そして、もうだめかと何度も思いながらもあきらめず、いろんな人に助けられ幸運にも恵まれて、なんとか新しく携帯電話用 GaAs デバイス事業を創ることに成功し、その夢を実現することができた。それはあたかも、ベンチャーの社長であったような体験だった。

本書は、私という一人の技術者が、新しい事業を創ろうと夢を抱きながら苦労を重ねたその半生を、その過程で経験した様々な事例やエピソードを交えて語ると共に、新しい事業での成功を志す次の経営者達に、その体験を踏まえて是非伝えたいと思うメッセージを綴ったものである。だから一応は、新規事業開発の成功譚ではあるが、決して順風満帆の自慢話ではなく、波乱万丈でかつ結構ほろ苦い苦労話のつもりである。

今、携帯電話にはその無線送受信部に、この GaAs 半導体を使ったデバイスが多数使われているが、実は私が、初めてそれを携帯電話に使うことを提案し、携帯電話ブームのきっかけとなったムーバ1号に導入、実用化したプロジェクトのリーダーだった。このデバイスの使用により携帯電話の消費電力が激減し、初めて現在のような小型化が可能になったと言っても過言ではない。それで最近では、自分で自分のことを、誰も言ってくれないからであるが、「携帯電話の父」と呼んでいる。

本書では、様々なエピソードを踏まえながら、その経緯を述べる。

ところで、日本はかつてエコノミック・アニマルと呼ばれる程、世界で一人勝ちだったときがある。80年代、私が、三十代後半から四十代前半の頃で、丁度、GaAs デバイスを新しい事業にしようと走り回っていた頃である。日本は、特に「ものづくり」で世界をリードしていた。半導体で世界最高権威の学会である国際固体回路会議（ISSCC）でも、私が参加した 1983 年のニューヨークでの会議では、日本人技術者は颯爽と肩で風を切って歩いていた。

しかし今はどうだろうか。日本は今も貿易黒字である。しかし社会には閉塞感や、不景気感が蔓延している。多分、昔の財産で生き延びているだけなのではないだろうか。「ものづくり」の世界でも、日本は中国や、韓国、台湾などに常に押され気味で、どこか元気がない。一方で、昔から日本と覇を争っていた米国は、依然として業界のリーダーであり続

けているにも関わらず、である。

日本はどうなってしまったのだろうか？ どうしたら再び元気になれるのだろうか？

私は、新しいコア技術を持ったベンチャーや、新しい事業を興すことが、再び日本が元気を取り戻すための最善の処方箋だと思っている。それで私は今、新規事業開発やベンチャーを支援する小さな会社を興し、「汗と知恵」をモットーに毎日走り回っている。

そしてその支援の現場で、しばしば、私が前に GaAs デバイスの事業化で体験したのと、よく似た状況に遭遇することがある。そんなときいつも私は、本書であげたような具体的な事例を踏まえて助言することになっている。その助言は、机上の空論ではなく、実際に体験した現場、現物を踏まえての話だから、若い人には説得力もあり、面白いようである。

本書が、是非そんな風にして、新しい事業の成功を志す人にとって少しでもお役にたてば幸いである。そして事業創出に成功する起業家が輩出し、一日も早く、再び日本が元気な社会に戻ることを期待して止まない。

2007年 12月 吉日

南部 修太郎